

授業科目

救急蘇生学

担当教員名 大松 健太郎	対象学年	2	対象学科	救急
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	◎	○	

授業の概要

救急救命士が行う処置は、理論的な観察・評価に裏付けされていなければならない。そのためには、系統立てた活動展開の理解のもとで、さまざまな情報、傷病者の所見から病態を推測する能力が必要となる。本科目では、心肺停止時における活動の基本的考え方をもとにした必要な処置と器材の取り扱い、特定行為に関連する処置と器材の取り扱いなどに関する内容を専門基礎科目で学んだ内容と関連づけて学習する。

授業の目的

心肺停止時における活動の基本的考え方をもとにした必要な処置と器材の取り扱い、特定行為に関連する処置と器材の取り扱いなどに関する内容を専門基礎科目で学んだ内容と関連づけて学習する。

学習目標

本科目では、以下の内容について説明できるようになることを目標とする。

1. 基本的な気道確保器具の使用方法、プロトコール、適応、禁忌
2. 高度な気道確保器具の使用方法、プロトコール、適応、禁忌
3. 各種人工呼吸の方法、プロトコール、適応、禁忌
4. 用手胸骨圧迫と自動心マッサージ器の使用方法、プロトコール、適応、禁忌
5. 電氣的除細動のメカニズム、使用方法、プロトコール、適応、禁忌
6. 心肺停止傷病者に対する静脈路確保の方法、適応、禁忌
7. アドレナリンの使用方法、プロトコール、適応、禁忌
8. 市民～救急隊員～医療機関内における救急蘇生法の手順・方法とそれぞれの相違点

授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1	基本的な気道確保器具（用手およびOPA、NPA、気道異物除去）	講義	大松 健太郎
2	高度な気道確保器具1（声門上気道デバイス）	講義	大松 健太郎
3	高度な気道確保器具2（気管挿管および気管吸引）	講義	大松 健太郎
4	高度な気道確保器具3（気管挿管プロトコール）	講義	大松 健太郎
5	人工呼吸（BVM、人工呼吸器）	講義	大松 健太郎
6	胸骨圧迫（用手および自動心マッサージ器）	講義	大松 健太郎
7	除細動	講義	大松 健太郎
8	心肺機能停止傷病者に対する静脈路確保と輸液1	講義	大松 健太郎
9	心肺機能停止傷病者に対する静脈路確保と輸液2	講義	大松 健太郎
10	アドレナリン投与1	講義	大松 健太郎
11	アドレナリン投与2	講義	大松 健太郎
12	成人の一次救命処置1（救急隊員による救急蘇生法）	講義	大松 健太郎
13	成人の二次救命処置2（救急救命士の心肺機能停止対応業務プロトコール）	講義	大松 健太郎
14	成人の二次救命処置3（医療機関における二次救命処置）	講義	大松 健太郎
15	小児、乳児の救急蘇生法および全体のまとめ	講義	大松 健太郎

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書	改訂第9版 救急救命士標準テキスト 上巻	救急救命士標準テキスト編集委員会	へるす出版	2015年	10,584円	1年次購入済
	改訂第9版 救急救命士標準テキスト 下巻	救急救命士標準テキスト編集委員会	へるす出版	2015	10,584	1年次購入

	ト下巻	員会	版	年	円	済
参考書						
その他の資料						

評価方法

- 1.筆記試験（100%）。
- 2.必要に応じてレポートを課す。期限内にレポート提出ができない場合は評価点より減点する。
- 3.筆記試験が不合格の場合は1回のみ再試験を行なう。

履修上の留意点

以下に挙げる場合は、科目試験の判定を放棄したものとみなす。

- 1.1～14回のうち5回以上の欠席がある場合。
- 2.授業態度不良と判断された場合。

オフィスアワー・連絡先

授業開始時に担当教員より連絡する。